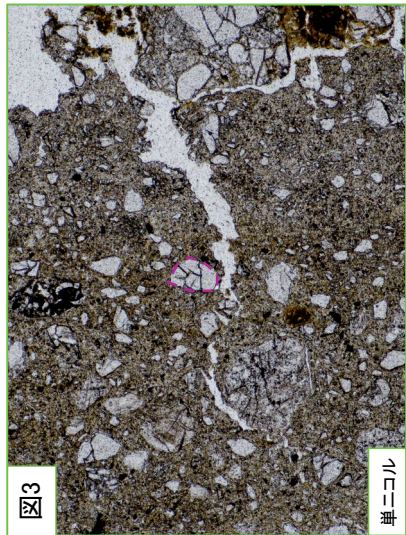
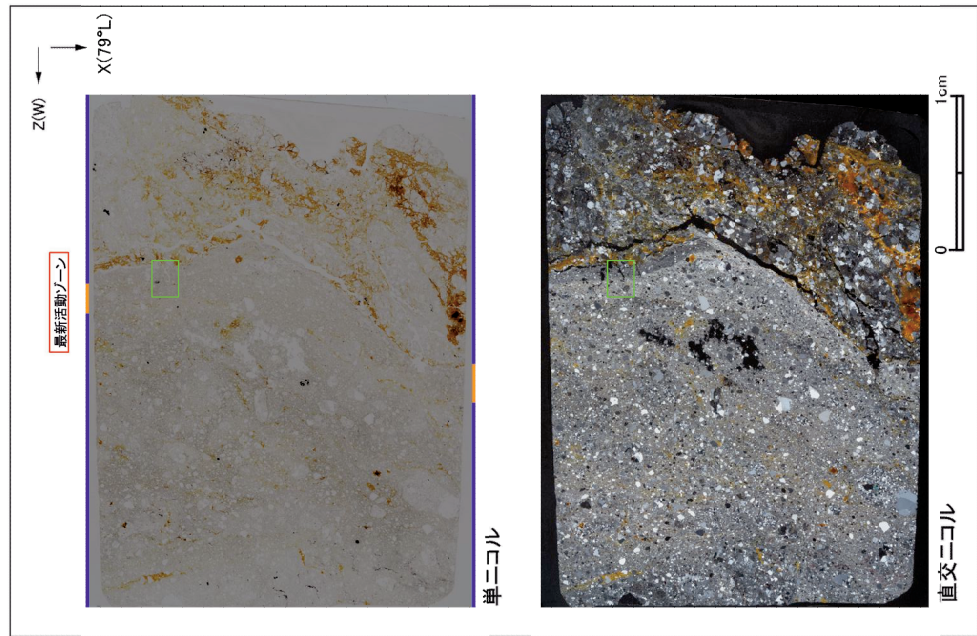
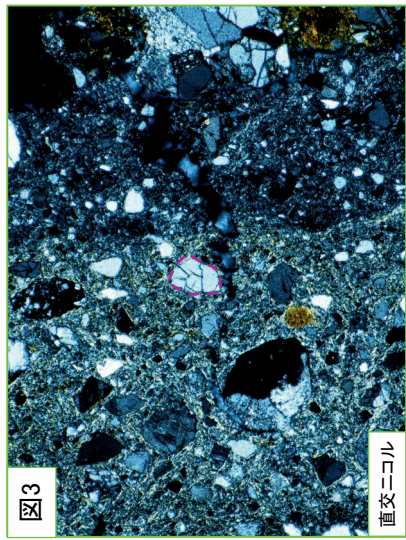


・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 > ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



(肉眼観察結果 深度71.33m)

- 深度71.31～71.33mの「砂混じり粘土状」と記載の箇所については、やや軟質で、細粒部の直線性はやや乏しいが、連続性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。

- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。

- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- ジグソー状の角礫群が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された「砂混じり粘土状」と記載の箇所については、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	2.0	有

*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度72.72～72.75mの「細礫混じり砂質粘土状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度72.75～73.09mの「粘土混じり砂質角礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

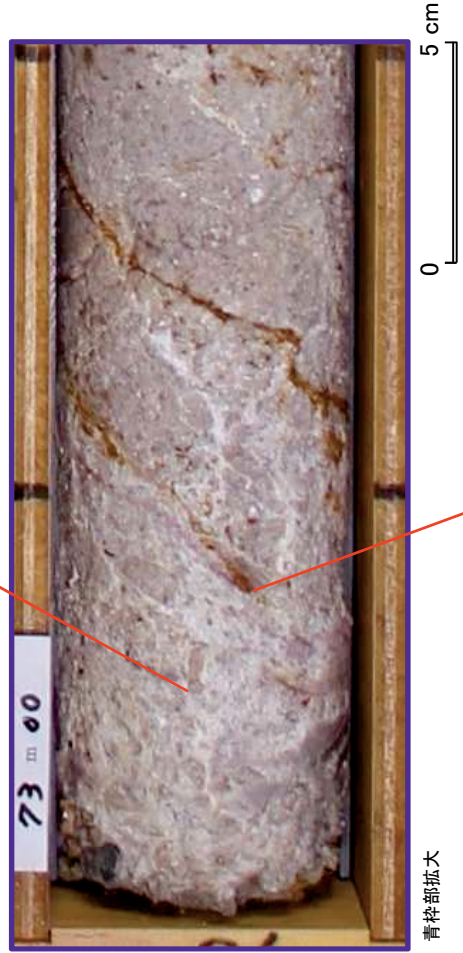
ボーリング柱状図

●72.72～73.09m：破砕部
 72.72～72.75m：細礫混じり砂質粘土状部(Hc-2)。上端28°で波打つ、下端49°で幅2mmの軟質な明赤灰色粘土を挟む。粘土は不連続である。軟質。幅20～30mm程度。灰白色を呈する。
 72.75～73.09m：粘土混じり砂質角礫状部(Hb)。下端27°で幅2mmの軟質な明赤灰色粘土を挟む。粘土は不連続である。やや軟質。灰白色粘土が網目状に分布する。灰白色を呈する。



凡例
 ← → 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

灰白色粘土が網目状に分布する



明赤灰色粘土は不連続である

第7.4.4.372図(1) 破砕部性状 H31-R-1 深度72.72～73.09m (肉眼観察による断層岩区分)

・薄片は断層面β及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

※断層面βは最新活動面

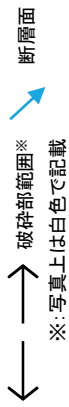


73

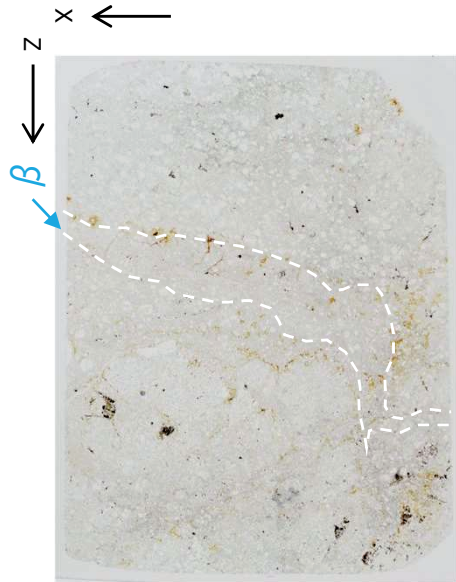
74

※破碎部範囲のうち、一部のコア写真を表示

凡例

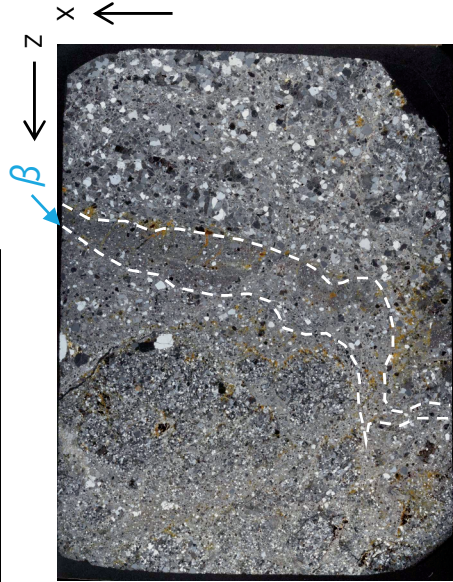


薄片全景写真(単ニコル)



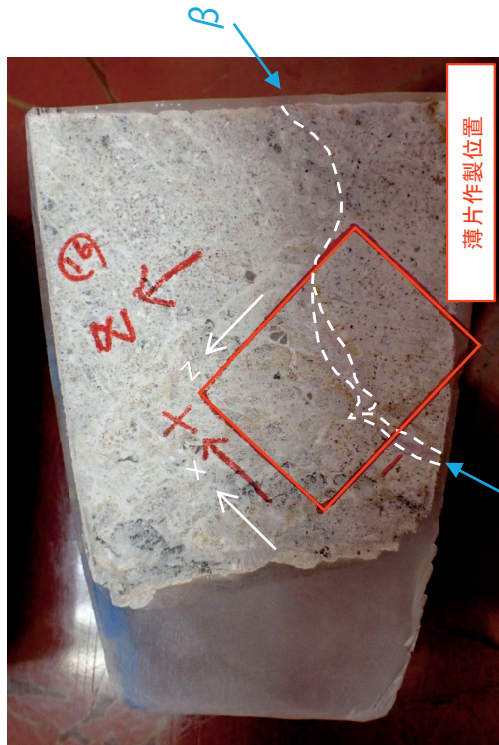
X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

薄片全景写真(直交ニコル)

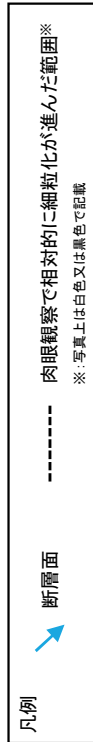


X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

薄片作製位置写真

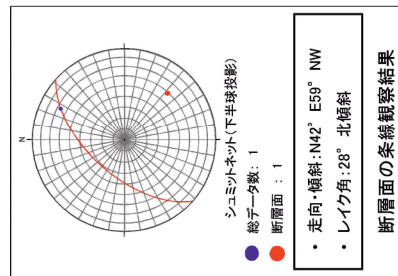


X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

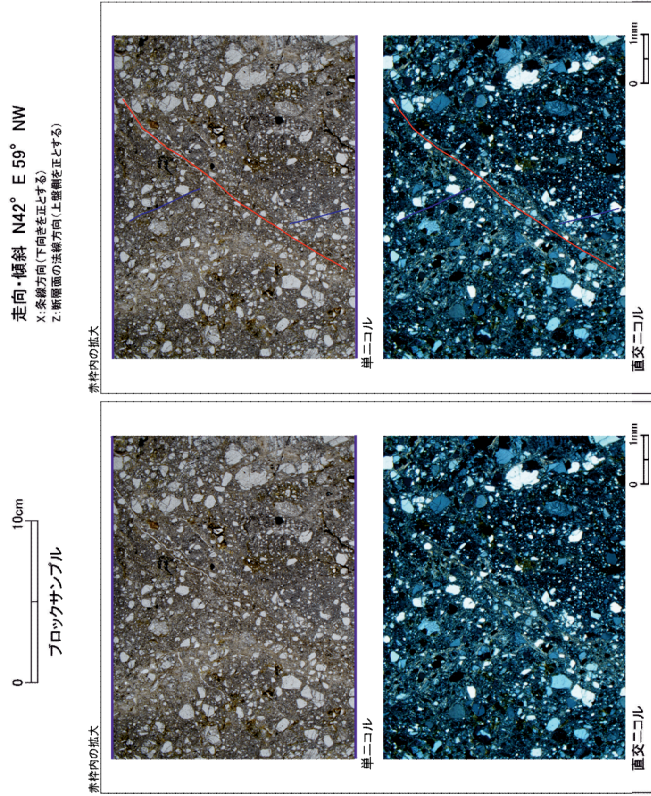
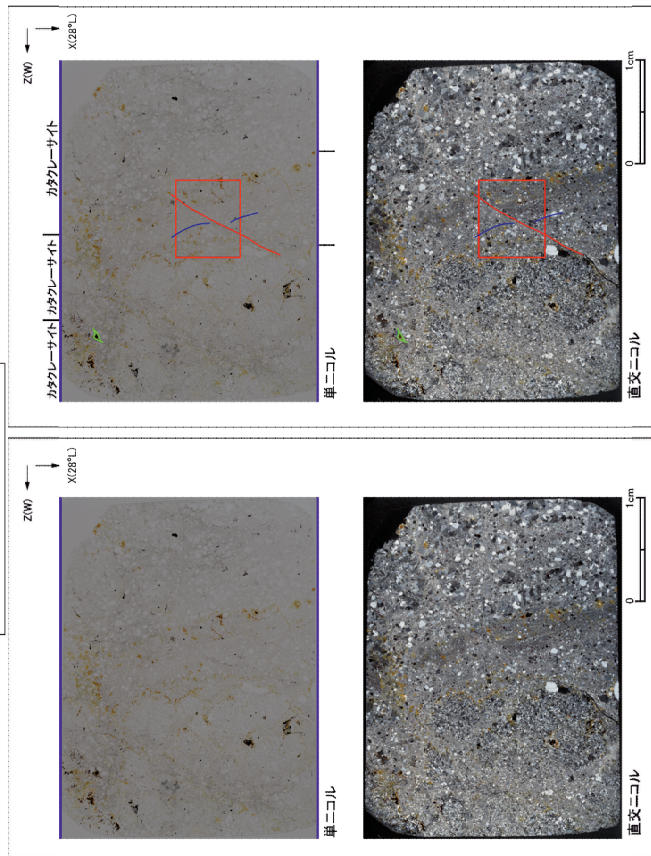
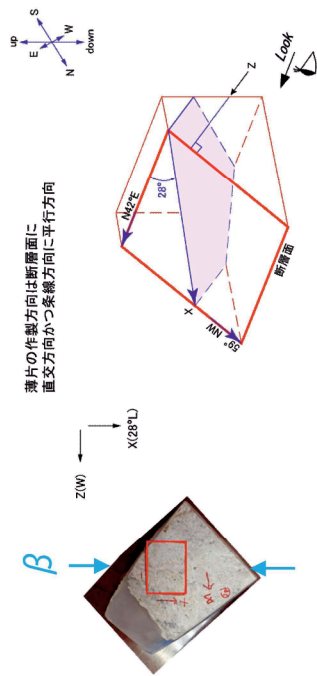


第7.4.4.372図 (2) 破碎部性状 H31-R-1 深度72.72~73.09m (薄片作製位置)

- ・H31-R-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれを伴う逆断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
 - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - (カタクレーサイト) 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。
 - (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
 - (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
 - (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
 - 岩片は少ない。

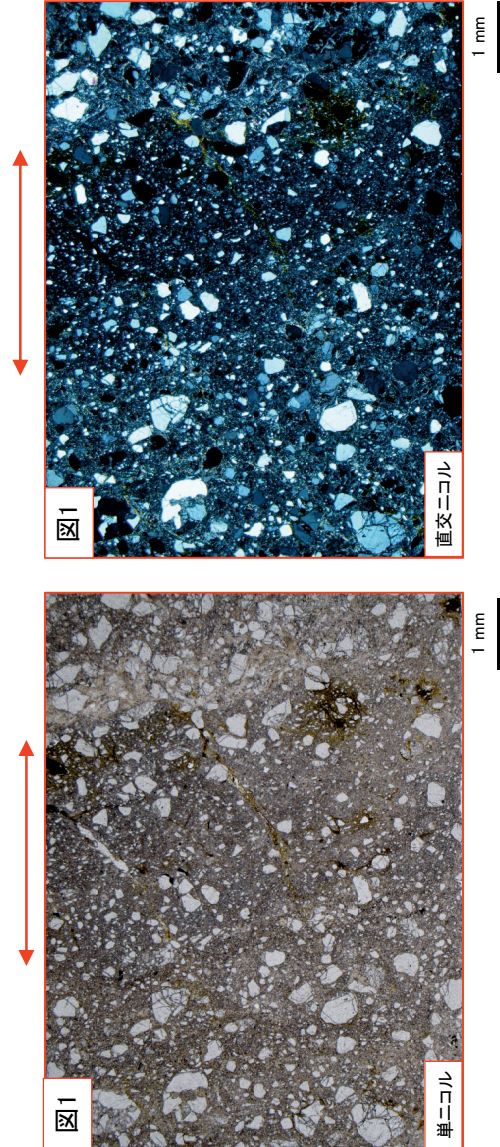


※断層面 β は最新活動面

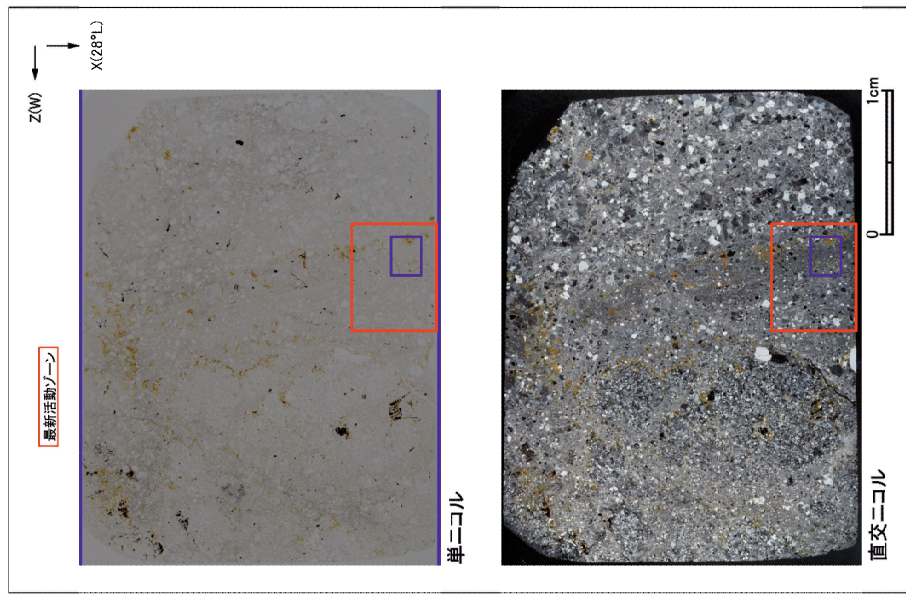


凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト
R1面
P面
非対称変形構造

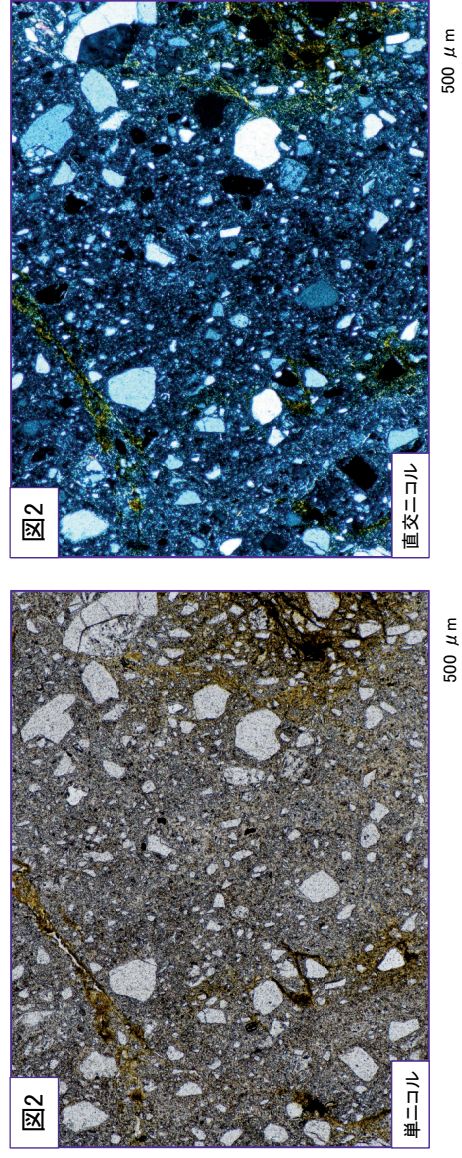
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- 岩片は少ない。(図2)



赤矢印は粘土鉱物の分布が漸移的に変化することを示す



凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト



第7.4.4.372図 (4)

破碎部性状 H31-R-1 深度72.72~73.09m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))